

# ダジック・アース・データベースから学んだこと (1/2)

なぜ始めたのか？

誰もしていなかったから。日本科学未来館や米国NOAAは科学館などの大規模なシステムに特化していた。

良かった点は？

- ・ 文部科学省の補助を得て、3,000以上のユーザーにDVDとマニュアルを配布することができた。
- ・ 学校での利用が広まりつつある。多数のコンテンツが無料でダウンロードして使え、導入の敷居が低いため。



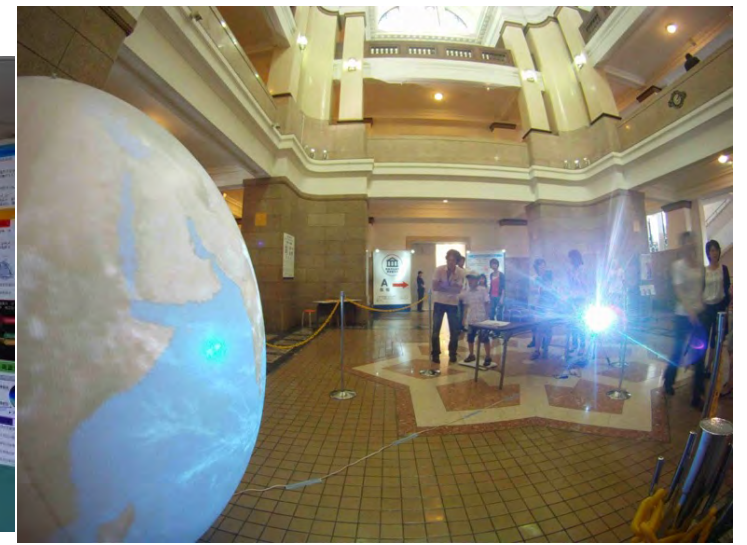
# ダジック・アース・データベースから学んだこと (2/2)

難しかった点は？

- ・ 学校で新しいものを使ってもらうのは大変。各地の教育センターによる研修によって展開が進んだ。
- ・ 一般向けのデータベースなので、Phase Cデータベースとしてオープンにするだけでは十分でなく、知ってもらう活動が必要。
- ・ 組織によって運営していないので長期的な展望が描けない。

結論

- ・ 開始時の想定以上に利用が広まっているが、長期的なデータベースの維持については見通しが立っていない。
- ・ 恒久的なサービスであるPhase Dへ進める戦略が必要。



## これらのデータベース作成・維持の経験から：Phase-upの重要性

- ・ データベースをCloseかOpenか、あるいはMetadataの有無だけで捉えるのではなく、「恒久的な」データ提供に向けてどのPhaseにあるか、という考えで捉えるとそのデータベースの位置付けがわかりやすくなる。
- ・ Phase-CからPhase-DへのPhase-upはopenなPhase-CのデータがPhase-Dとして運用されているデータベースに組み込まれる形でも良い。
- ・ データベースのPhaseを上げる(Phase-up)作業は、データの作成と同様にデータベースにとって重要な作業で、データベースの属性として記載されるべき。

## 提案：共同利用機関によるデータベースPhase-up公募

- ・一般研究者のデータとデータベースのPhase-upを助ける仕組みがあるとありがたい。
- ・データの選択は必要なので、実施するのはそれぞれの研究の内容に通じている共同利用機関が良いか。多くの共同利用機関がデータベースの共同利用公募を行っているが、逆に収納するデータ/データベースの公募を行う形。
- ・優れたデータはPhase-Dデータベースとして恒久的に提供されるのが望ましい。
- ・データだけでなくプログラムも含めたデジタル・リソース全体にも適応できるのかもしれない。
- ・特に引退する研究者の優れたデジタル・リソースを恒久的にオープンに利用できる形にするのは意味があるのではないか。